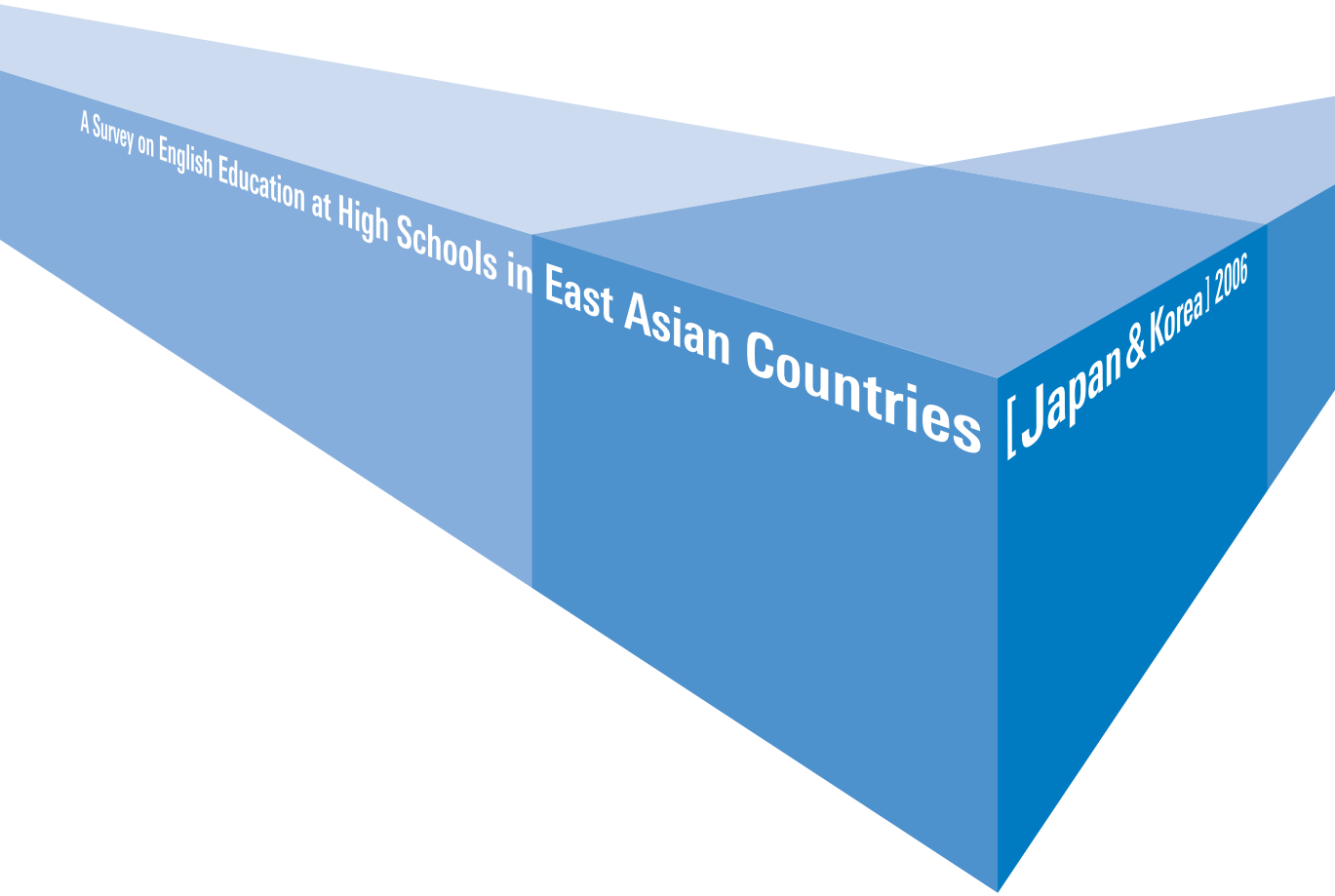
Benesse® 教育研究開発センター



速報版

東アジア高校英語教育 GTEC調査2006

CONTENTS

調査概要 …… 2

1. 日本の高校生の英語学習

1 学校での英語学習 …… 4
2 宿題・予習・復習を中心とした家庭での英語学習 …… 5
3 英語学習の好き嫌い …… 6
4 英語学習に対する意識 …… 7

2. 小学校での英語学習の影響

小学校での英語学習の状況 …… 8
1 小学生時の英語学習の好き嫌い …… 9
2 小学校での英語学習経験と現在の英語学習に対する意識 …… 10
3 英語学習の効果感 …… 11

3. 日本と韓国の高校生

1 英語力の状況 …… 12
2 英語圏での英語使用経験 …… 14
3 国内での英語使用経験 …… 15

Benesse Corporation

調査概要

調査テーマ

東アジアの2ヵ国（日本・韓国）における英語コミュニケーション能力と、高校生の学習習慣や意識、英語使用状況、教員の指導方法の調査から、両国の英語教育の実態を把握し、課題を明らかにする。

調査時期

日本：2006年7月～2007年1月
韓国：2006年9月

調査対象

	学校数（校）	教員（人）	生徒（人）		
			高1	高2	合計
日 本	10	65	2,205	1,495	3,700
韓 国	5	43	2,042	1,977	4,019

● **地域**　日本：北海道、山形県、埼玉県、千葉県、岐阜県、兵庫県、鹿児島県
韓国：ソウル市、慶尚北道（浦項市）

調査方法と調査内容

	調査方法	調査内容
❶ 英語コミュニケーション能力調査	会場型試験 （リーディング45分+リスニングおよびライティング45分）	英語コミュニケーション能力テストであるGTEC for STUDENTSを用いて3技能（リーディング、リスニング、ライティング）を測定（GTEC for STUDENTSについてはP.13参照）。
❷ 生徒アンケート調査	学校通しの質問紙による自記式調査	・小学生以前の英語学習*　・中学生時の英語学習* ・現在の英語学習　・授業での英語活動の内容* ・教室内での英語活動に関する自己評価 ・英語圏への渡航経験と英語使用経験 ・日常での英語使用経験 ・英語学習に対する意識*　＊日本調査のみで実施の項目
❸ 教員アンケート調査	学校通しの質問紙による自記式調査	・英語教育の指導理念・目的 ・英語教育の方針・配慮している点

＊今回の『速報版』では❶と❷の概況を報告する。❶、❷の詳細な分析、および、❸については『東アジア高校英語教育GTEC調査2006報告書』（2007年10月刊行予定）にて報告。

本調査は、『東アジア高校英語教育調査』（2003年度実施）、『東アジア高校英語教育GTEC調査』（2004年度実施）の継続調査として、一部項目を見直して日本・韓国2ヵ国で実施した。

調査対象校と分析について

●調査対象校について

調査対象校については、以下2点を必要条件として抽出した。

1）学校全体として、4年制大学への進学を目指す指導を行っている高校であること

2）原則的に GTEC for STUDENTS を校内で学年全体として一斉受検していること

＊本調査結果は、上記の条件などをもとに有意に抽出された学校のものであり、日本・韓国の高校英語教育全体を代表するものではないことを予めご理解ください。

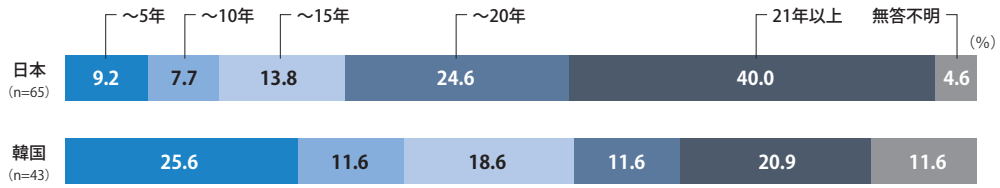
●分析上の留意点

日本・韓国では、高校英語教育を取り巻く様々な要因（教育制度や入試制度、校外学習の状況など）が異なることから、調査結果の単純な比較は難しい。このため、ここでは両国データの違いをみるところにとどめる。

教員アンケートからみえる調査対象校の特性

教員アンケート調査の結果からみえる調査対象校の特性は、以下のとおりである。

英語教員歴



＊日本調査では、教員歴を数値で記述してもらった。ここではその回答を5年間隔で集計している。

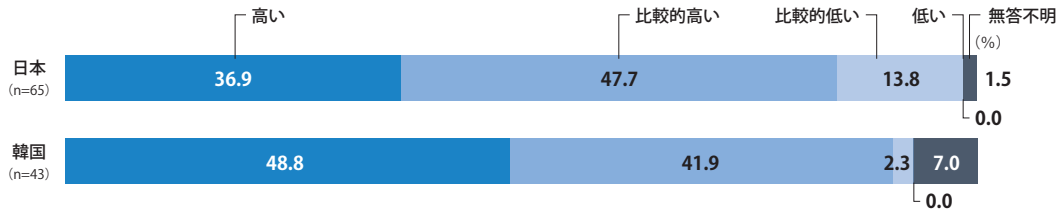
過去5年間の英語教員研修受講経験

Q 過去5年間に国内の英語教員研修に参加されましたか。

＊韓国では、「過去5年間の英語教員研修受講経験」という形で尋ねている。

高校での入試指導状況

Q 学校の入試指導意識として、当てはまるものの番号1つに○をつけてください。



＊ 韓国では、「学校としての『大学入試のための指導』に対する意識」という形で尋ねている。

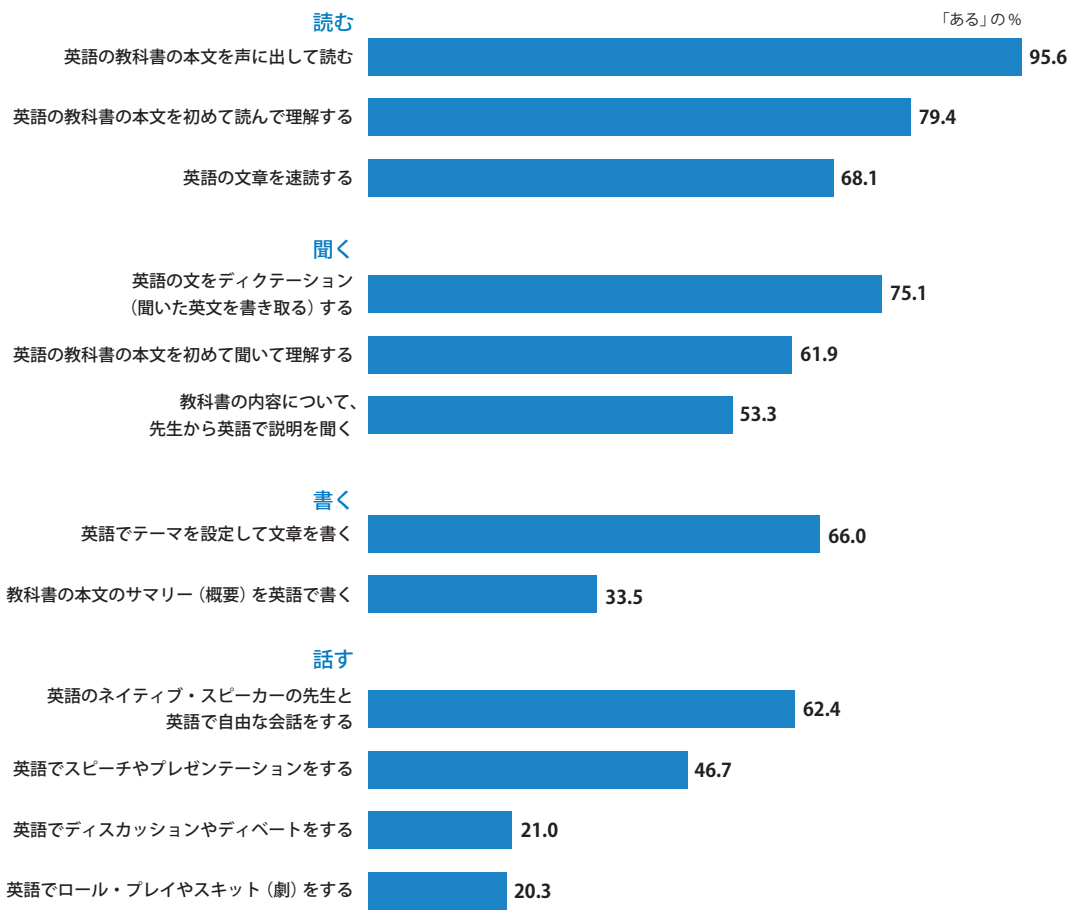
1. 日本の高校生の英語学習

1 | 学校での英語学習

「読む」「聞く」活動はどの項目も、半数以上の生徒が経験している。「書く」「話す」活動では経験している割合が相対的に低めだが、「英語でテーマを設定して文章を書く」や、「英語のネイティブ・スピーカーの先生と英語で自由な会話をする」などの活動は6割強が経験している。

Q この活動をしたことがありますか。

図1-1 学校での英語活動の実態 (n=3,700)



「英語の教科書の本文を声に出して読む」「英語の文をディクテーション（聞いた英文を書き取る）する」などの「読む」「聞く」活動は、どの項目も半数以上の生徒がやったことがあると回答している。「書く」「話す」活動は、「読む」「聞く」活動に比べると経験している割合が低めではあるものの、「英語でテーマを設定して文章を書く」活動は66.0%、「英語のネイティブ・スピーカーの先生と英語で自由な会話をする」活動は62.4%の生徒が経験している。また、「話す」活動の中でも、難易度が高いと思われる「英語でスピーチやプレゼンテーションをする」を約半数が、「英語でディスカッションやディベートをする」を5人に1人が経験している（図1-1）。

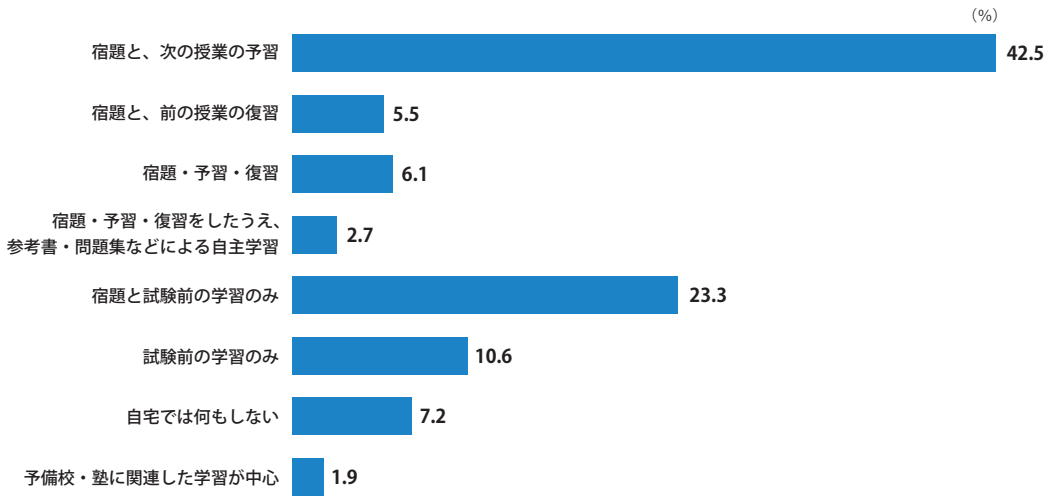
2 | 宿題・予習・復習を中心とした家庭での英語学習

家庭での英語学習は、宿題と予習が中心となっている。
また、宿題や予習・復習として英語を学習する時間は、平日で平均28.4分である。

Q 自宅での英語学習は、次のどれを中心に行っていますか。

図1-2 家庭での主な英語学習の内容 (n=3,700)

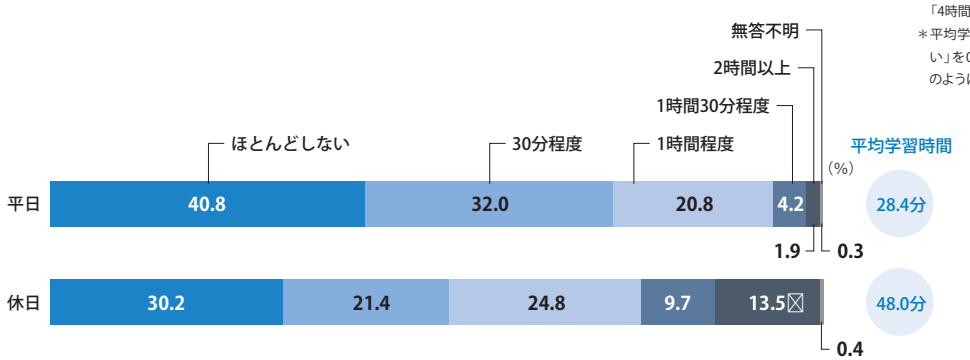
＊「無答不明(0.4%)」は図から省略した。



Q 学校の宿題や予習・復習として、1日にどの程度英語を学習していますか。

図1-3 英語の平均学習時間(宿題・予習・復習として) (n=3,700)

＊「2時間以上」は、「2時間程度」「2時間30分程度」「3時間程度」「4時間以上」の%。
＊平均学習時間は、「ほとんどしない」を0分、「1時間程度」を60分のように置き換えて算出している。



家庭での主な英語学習の内容は、「宿題と、次の授業の予習」が42.5%と最も多い。復習を行っている生徒は、予習と復習の両方行っている生徒を合わせても、約15%にとどまっており、宿題と予習が家庭学習の中心となっていることがうかがえる(図1-2)。また、学校の宿題や予習・復習として1日に英語を学習する時間は、平日は平均28.4分、休日は平均48.0分となっている(図1-3)。

3 | 英語学習の好き嫌い

英語学習が好きな生徒は3割強、嫌いな生徒は3割弱と、「好き」と「嫌い」がほぼ拮抗している。また、英語学習が好きな生徒のほうが、嫌いな生徒よりも日常生活において、様々な形で実際に英語を使っている。

Q 現在の英語学習は好きですか。

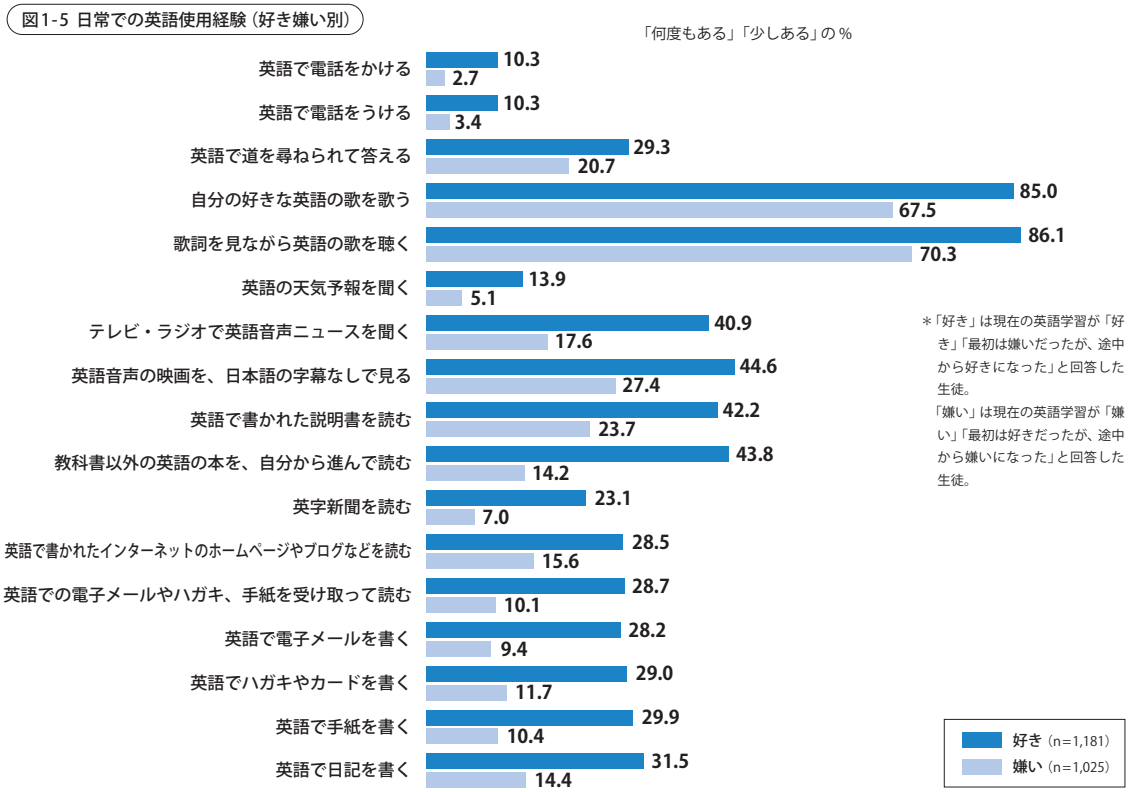
図1-4 現在（高校時）の英語学習の好き嫌い（n=3,700）

＊「好き」は「好き」「最初は嫌いだったが、途中から好きになった」の%。
「嫌い」は「嫌い」「最初は好きだったが、途中から嫌いになった」の%。

［好き嫌い別にみた日常での英語使用経験の違い］

Q 以下の「日常生活で英語を使う場面や活動」について、経験したことがありますか。

図1-5 日常での英語使用経験（好き嫌い別）



＊「好き」は現在の英語学習が「好き」「最初は嫌いだったが、途中から好きになった」と回答した生徒。
「嫌い」は現在の英語学習が「嫌い」「最初は好きだったが、途中から嫌いになった」と回答した生徒。

現在の英語学習が好きかどうかをたずねたところ、31.9%が「好き」、27.7%が「嫌い」と回答し、ほぼ拮抗している（図1-4）。英語の好き嫌い別に日常での英語使用経験をみると、全般的に好きな生徒のほうが経験している割合が高い。例えば、「教科書以外の英語の本を、自分から進んで読む」ことは、好きな生徒のほうが約3倍となっている。英語を好きな生徒のほうが、嫌いな生徒に比べて、日常でも自ら英語に触れようとしている様子がうかがえる（図1-5）。

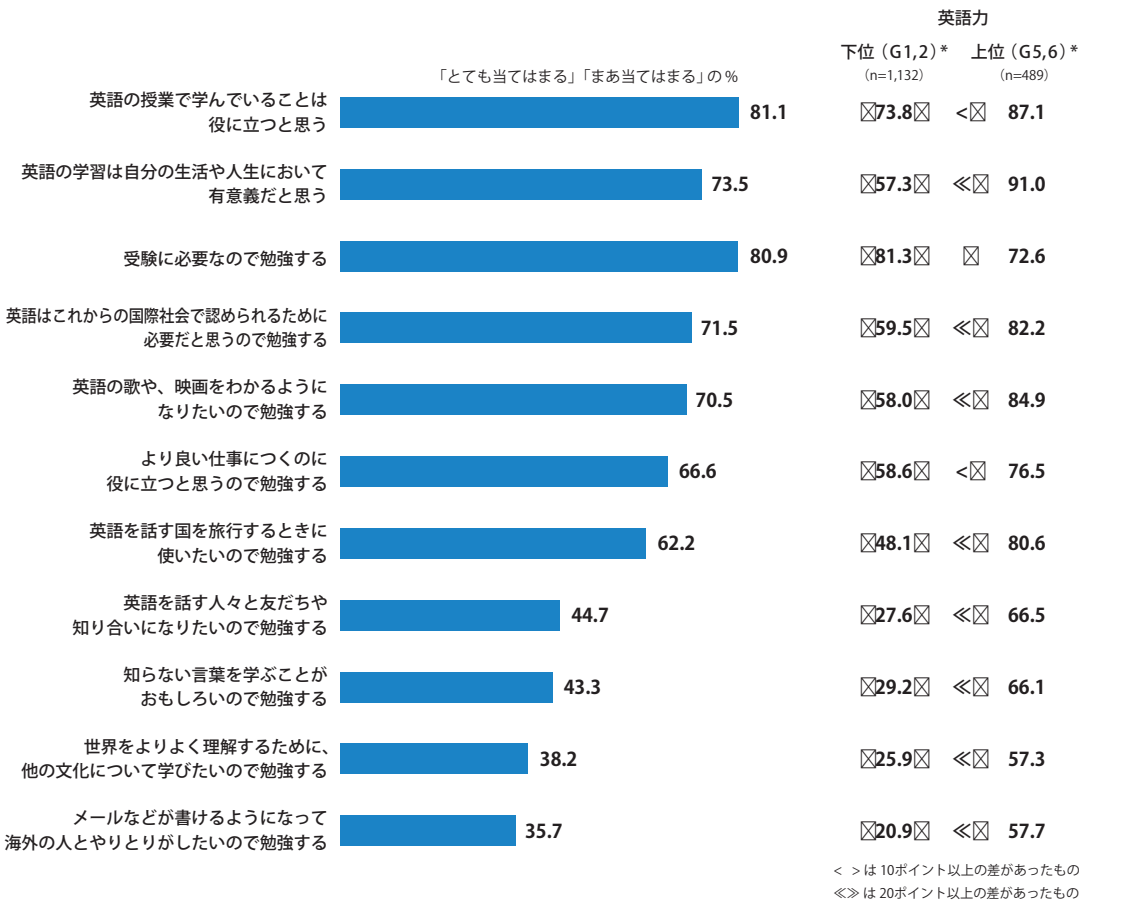
4 | 英語学習に対する意識

8割以上の生徒が、「英語の授業で学んでいることは役に立つと思う」と回答。
英語学習の動機は「受験に必要なので勉強する」が最も多い。
また、英語力によって、英語学習に対する意識に違いが見られる。

Q あなたの英語学習について 以下の項目について、当てはまるものの番号に○をつけてください。

図1-6 英語学習に対する意識 (n=3,700)

＊「G1,2」は GTEC for STUDENTS（P.13参照）のトータルグレード1と2、「G5,6」はトータルグレード5と6。



＜ ＞は 10ポイント以上の差があったもの
≪≫は 20ポイント以上の差があったもの

81.1％の生徒が「英語の授業で学んでいることは役に立つと思う」と回答している。また、73.5％の生徒が「英語の学習は自分の生活や人生において有意義だと思う」と回答している。英語力による違いをみると、「受験に必要なので勉強する」以外の項目では、上位層の方が、下位層に比べて英語学習に対して高い目的意識を持っている。特に、コミュニケーションや文化、言葉への興味（「英語を話す人々と友だちや知り合いになりたいので勉強する」など）で差が大きくなっている（図1-6）。

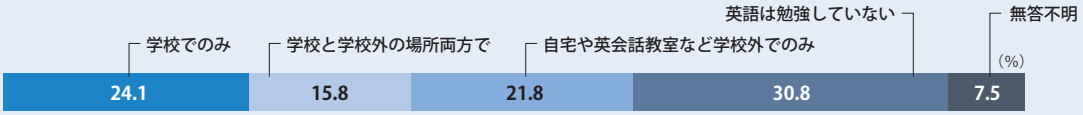
2. 小学校での英語学習の影響

小学校での英語学習の状況

今回の日本における調査では、現在の高校生の小学生以前での英語学習の影響をみるため、回答者（高校生）に小学生以前の英語学習を振り返って質問に回答してもらっている。次頁以降にその結果から、小学校での英語学習に関する結果の概況をまとめている（校外学習を含めた詳細な分析は、2007年10月刊行予定の『東アジア高校英語教育GTEC調査2006報告書』にて報告）。本頁ではその前提となる、本調査回答者の小学校での英語学習状況をまとめている。なお、本調査のサンプリングには、調査上の目的から、小学校で英語活動を積極的に行っていた地域の高等学校を意図的に調査対象校として組み込んでいる。以上の点をふまえ、事例研究として以降のデータをご参照いただきたい。

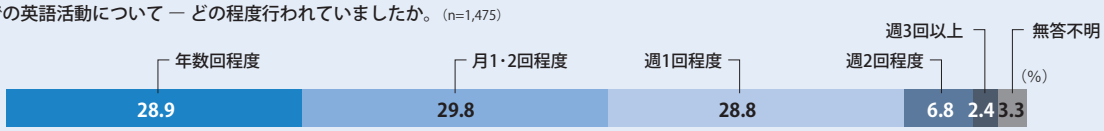
小学生以前の英語学習の場

Q 小学生のとき、およびそれ以前の、英語学習について ― 英語を学習した場所を答えてください。（n=3,700）



小学校での英語学習の頻度

Q 学校での英語活動について ― どの程度行われていましたか。（n=1,475）

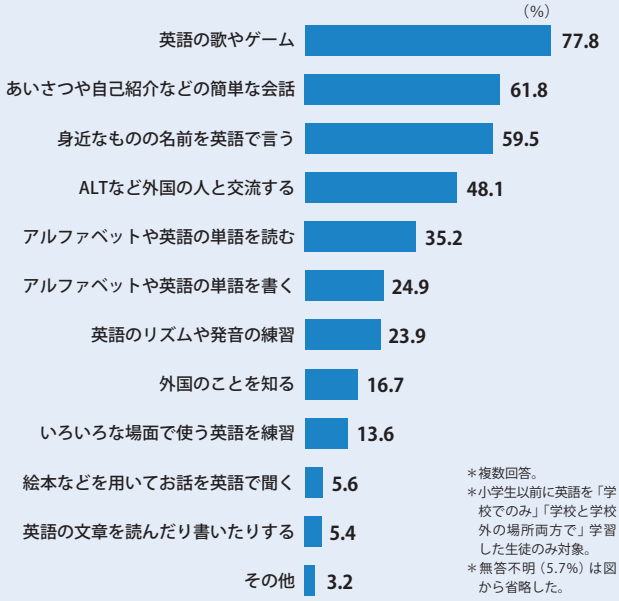


＊小学生以前に英語を「学校でのみ」「学校と学校外の場所両方で」学習した人のみ対象。

［参考データ］　本調査結果では、小学校で英語を学習した経験がある生徒のうち、約40%の生徒が週1回（年間35時間）以上英語学習をしていた。これに対して、『第1回小学校英語に関する基本調査（教員調査）報告書』（ベネッセ教育研究開発センター、2007）では、現在英語教育を行っている小学校のうち、年間35時間以上英語教育を行っている学校は、高学年でも14.6%にすぎず、本調査結果のほうが割合がかなり高い。これは、本調査では、英語活動を積極的に行っていた小学校がある地域の高等学校が調査対象校に含まれていたためと考えられる。

小学校での英語学習の内容

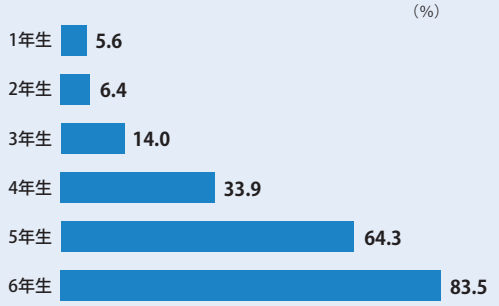
Q 学校での英語活動について ― どのような英語の活動でしたか。（n=1,475）



＊複数回答。
＊小学生以前に英語を「学校でのみ」「学校と学校外の場所両方で」学習した生徒のみ対象。
＊無答不明（5.7%）は図から省略した。

小学校で英語学習をした学年

Q 学校での英語活動は、何年生のときありましたか。（n=1,475）



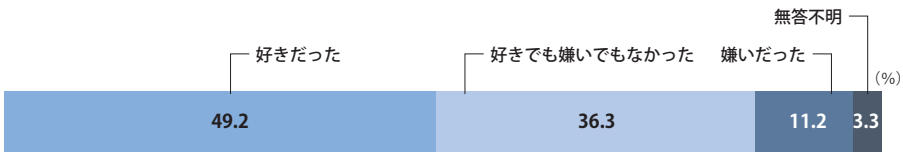
＊複数回答。
＊小学生以前に英語を「学校でのみ」「学校と学校外の場所両方で」学習した生徒のみ対象。
＊無答不明（3.6%）は図から省略した。

1 | 小学生時の英語学習の好き嫌い

小学校で英語を学習した生徒のうち、約半数が小学生時の英語学習について、「好きだった」と回答。「嫌いだった」生徒は1割強にとどまっている。また、小学校で英語学習を経験した生徒の方が、経験をしていない生徒に比べて、中学生での英語学習が「好きだった」割合が高い。

Q 小学生のときの英語学習は好きでしたか。

図2-1 小学校での英語学習経験者の小学生時の英語学習の好き嫌い (n=1,475)

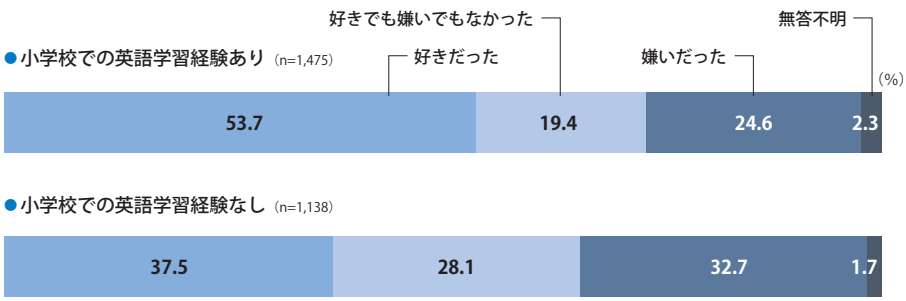


＊小学生以前に英語を「学校でのみ」「学校と学校外の場所両方で」学習した生徒のみ対象。
＊「好きだった」は「好きだった」「最初は嫌いだったが、途中から好きになった」の%。
「嫌いだった」は「嫌いだった」「最初は好きだったが、途中から嫌いになった」の%。

[小学校での英語学習経験と中学生時の英語学習の好き嫌い]

Q 中学生のときの英語学習は好きでしたか。

図2-2 中学生時の英語学習の好き嫌い（小学校での英語学習経験の有無別）



＊「小学校での英語学習経験あり」は小学生以前に英語を「学校でのみ」「学校と学校外の場所両方で」学習した生徒。「小学校での英語学習経験なし」は、小学生以前に「英語は勉強していない」生徒。
＊「好きだった」は「好きだった」「最初は嫌いだったが、途中から好きになった」の%。
「嫌いだった」は「嫌いだった」「最初は好きだったが、途中から嫌いになった」の%。

小学校で英語を学習した生徒のうち、49.2%が小学生の時の英語学習が「好きだった」と回答し、「嫌いだった」と回答した生徒は、11.2%にとどまっている。また、「好きでも嫌いでもなかった」生徒が、3割強となっている（図2-1）。小学校での英語学習経験者の中学生時の英語の好き嫌いをみると、小学生時に比べて、「好きでも嫌いでもなかった」が19.4%と減り、「好きだった」生徒、「嫌いだった」生徒が増えている。また、小学校での英語学習経験の有無別に、中学生時の英語の好き嫌いをみると、小学校での英語学習経験がある生徒の53.7%が、中学生時の英語が「好きだった」と回答。小学校での英語学習経験がない生徒の、37.5%を上回っている（図2-2）。

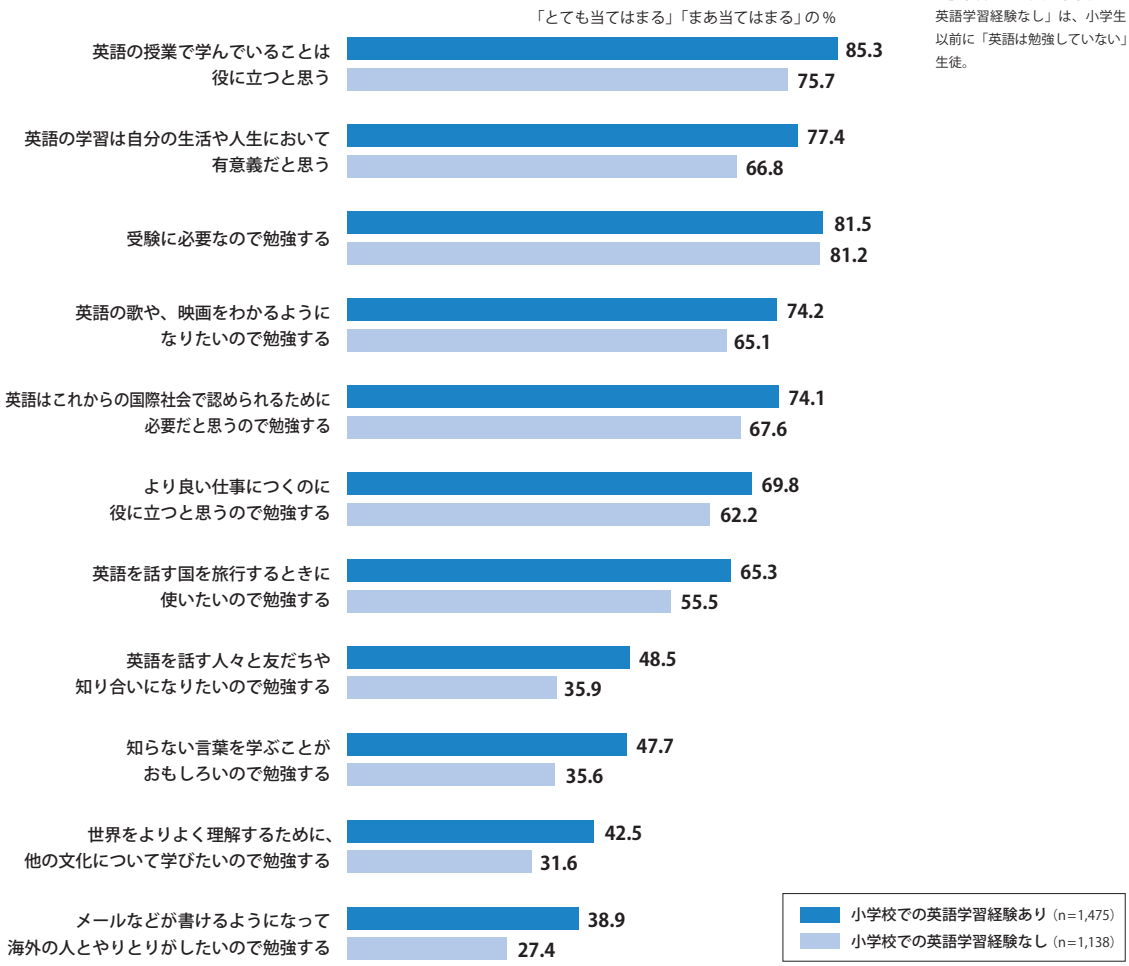
2 | 小学校での英語学習経験と現在の英語学習に対する意識

小学校で英語学習を経験した生徒のほうが、経験のない生徒に比べ、現在、英語を学習することを有意義と感じている割合が高く、英語学習に対してより高い目的意識をもっている割合が高い。

Q あなたの英語学習について 以下の項目について、当てはまるものの番号に○をつけてください。

図2-3 小学校での英語学習経験と現在の英語学習に対する意識

＊「小学校での英語学習経験あり」は小学生以前に英語を「学校でのみ」「学校と学校外の場所両方で」学習した生徒。「小学校での英語学習経験なし」は、小学生以前に「英語は勉強していない」生徒。



小学校で英語学習を経験した生徒のほうが、経験のない生徒に比べて、現在の「英語の授業」が役に立ち、「英語の学習」は有意義であると感じている割合が高い。しかし、「受験に必要なので勉強する」という学習動機では、小学校での英語学習経験による差はほとんど見られない。一方、「英語を話す人々と友だちや知り合いになりたいので勉強する」などのコミュニケーションについての動機や、「知らない言葉を学ぶことがおもしろいので勉強する」などの言葉や文化への興味についての動機では、小学校での英語学習経験がある生徒のほうが10ポイント以上高い（図2-3）。

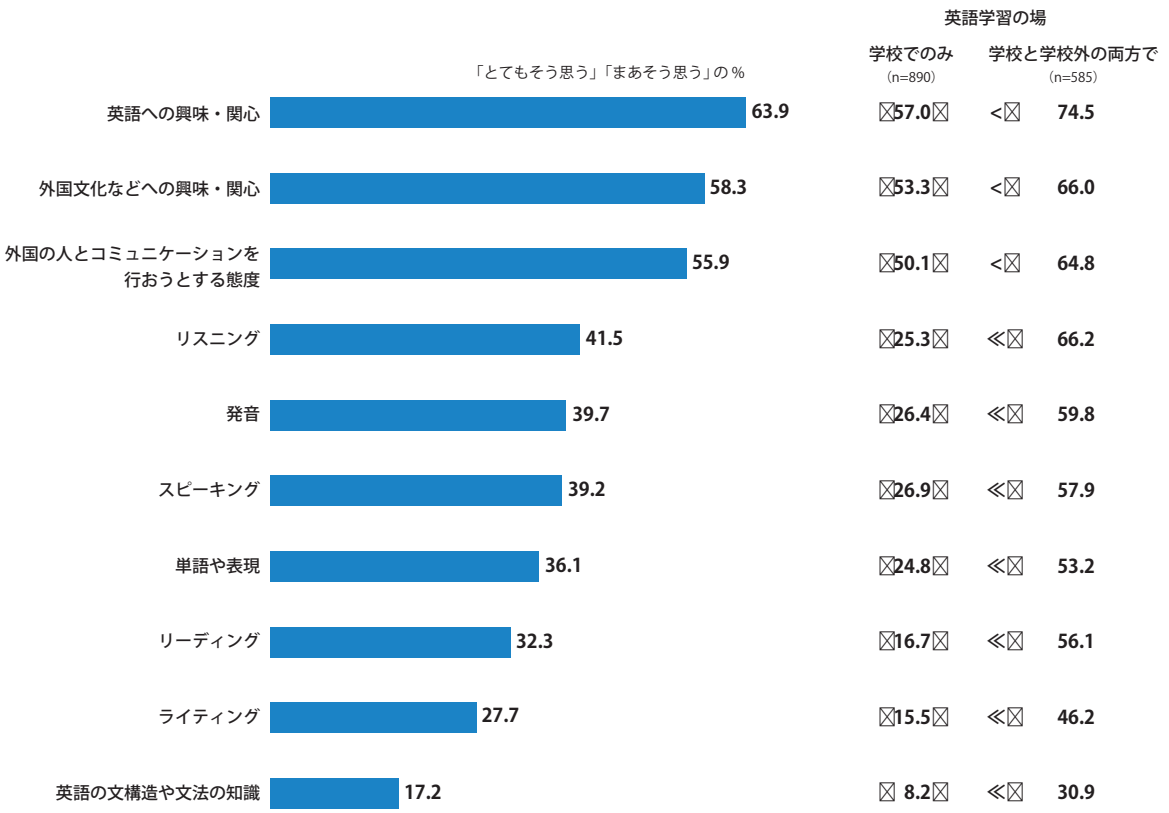
3 | 英語学習の効果感

小学校で英語学習を経験した生徒の半数以上が、小学生以前の英語学習が「英語」や「外国文化」への興味・関心と、「外国の人とコミュニケーションを行おうとする態度」といったコミュニケーションへの積極的態度に効果があると感じている。

Q 小学生のとき、およびそれ以前の英語学習は、自分の現在の英語力の土台・基礎となっていると思いますか。

図2-4 英語学習の効果感 (n=1,475)

＊小学生以前に英語を「学校でのみ」「学校と学校外の場所両方で」学習した生徒のみ対象。



＜ ＞は 10ポイント以上の差があったもの
≪≫は 20ポイント以上の差があったもの

小学校で英語学習を経験した生徒の63.9％が、「英語への興味・関心」について、小学生以前の英語学習が効果があったと回答。「外国文化などへの興味・関心」「外国の人とコミュニケーションを行おうとする態度」についても半数以上が効果を感じている。英語学習の場による違いをみると、「学校と学校外の両方で」学習した生徒のほうが、「学校でのみ」学習した生徒に比べて特に「スピーキング」などの技能についてより効果を感じている。しかしながら、関心・意欲・態度に関する項目（「外国の人とコミュニケーションを行おうとする態度」など）については、学習の場にかかわらず半数以上の生徒が効果を感じており、「学校でのみ」学習した場合でも、一定の効果があったと思われる（図2-4）。

3. 日本と韓国の高校生

1 | 英語力の状況

リーディング、リスニング、ライティングの3技能で、日本はライティングに
中位層（グレード3、4）の生徒が多く、韓国では、リーディングに上位層（グレード5、6）が多い。

表3-1 英語コミュニケーション能力調査結果（GTEC for STUDENTSの平均スコア）　（点）

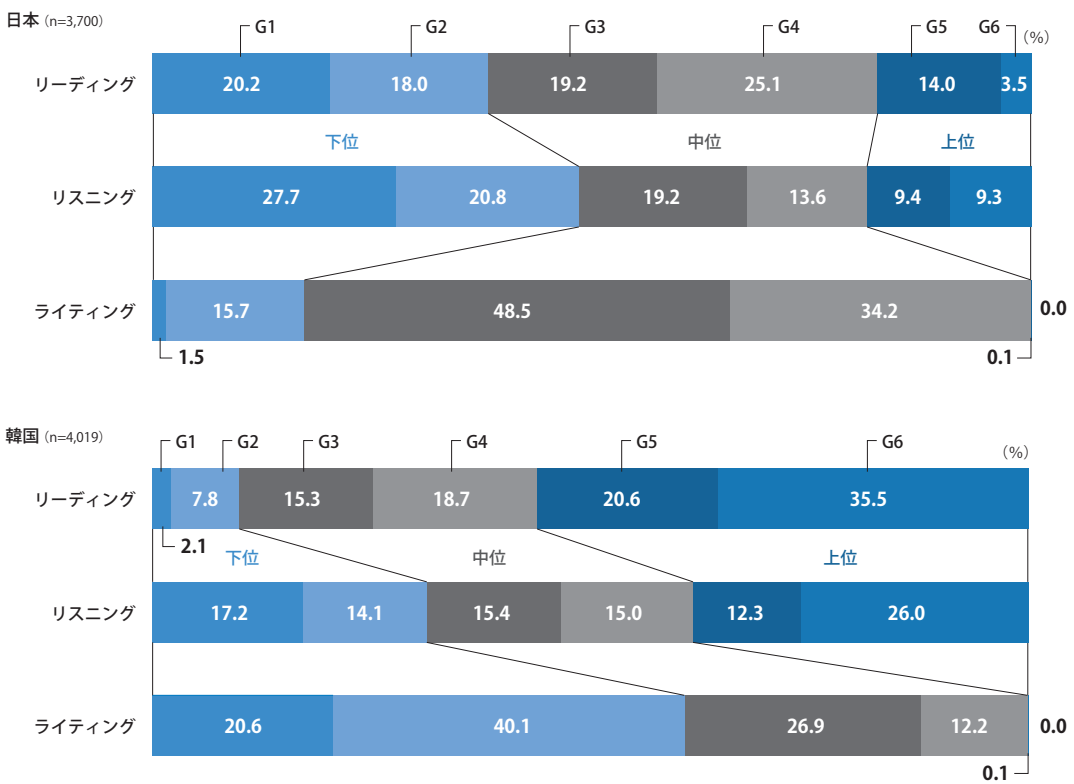
	リーディング（320点満点）	リスニング（320点満点）	ライティング（160点満点）	トータル（800点満点）
日本（n=3,700）	153.2	163.7	91.4	408.3
韓国（n=4,019）	205.5	187.6	66.5	459.6

＊日本・韓国の高校英語教育を取り巻く様々な要因が異なることから、単純な比較は難しい。このため、両国のデータについては違いを見るところにとどめる。なお、調査対象の詳細は、PP.2-3を参照。

＊本調査では、日本と韓国で受検したGTEC for STUDENTSのテスト回が異っている。このため、表中の日本のスコアは韓国のテスト回との比較用に換算したスコアを表示している。

図3-1 3技能（リーディング、リスニング、ライティング）別グレードの割合（日本・韓国）

＊G1～6は、GTEC for STUDENTSにおける3技能（リーディング、リスニング、ライティング）それぞれのグレードを表す。



3技能（リーディング、リスニング、ライティング）別にグレードの割合をみると、日本ではライティングで中位層（グレード3、4）が多いものの、リーディング、リスニングでは下位層（グレード1、2）が多い。これに対して、韓国では、リーディング、リスニングの上位層（グレード5、6）の割合がかなり高いが、ライティングについては下位層が6割を占めている（図3-1）。

参考　GTEC for STUDENTS のスコア・グレードについて

GTEC for STUDENTS のトータルスコア（800点満点）は、リーディング（320点満点）、リスニング（320点満点）、ライティング（160点満点）の3技能の合計得点である。また、トータルスコアの点数によって、トータルグレードとして6段階に分けられている。また、3技能（リーディング、リスニング、ライティング）についても、それぞれのスコアによって、6段階のグレードに分けられている。

● トータルグレード

グレード	スコア	グレードの意味
6	610以上	英語圏の4年制大学への留学に挑戦できる最低限レベル（680以上）
5	520〜609	英語圏の2年制大学への留学に挑戦できる最低限レベル（540以上）
4	440〜519	短期の語学留学で英語圏に行き、授業についていくための最低限レベル
3	380〜439	英語圏のホームステイや海外旅行に行って、英語体験を楽しめる最低限レベル
2	300〜379	英語圏のネイティブ・スピーカーの先生に積極的に話しかけるなど、経験を積むレベル
1	299以下	これからの可能性に期待レベル

● リーディング、リスニング、ライティングのグレード

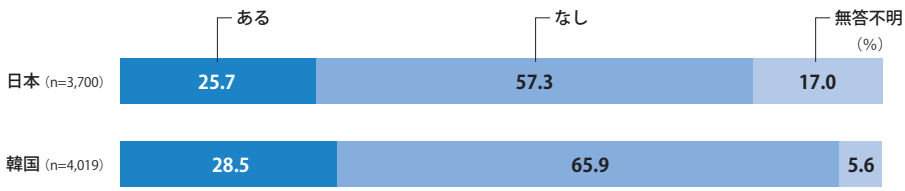
	リーディング		リスニング		ライティング☒	
グレード	スコア	グレードの意味	スコア	グレードの意味	スコア	グレードの意味
6	230以上	● 文章全体の趣旨を読み取ったり、検索が困難な特定の情報を探し出したりすることができる。 ● 適切なスピードで、正確に英文を読むことができる。	220以上	● さまざまな内容を細かいところまで十分に理解できる。 ● 長めの話や会話の流れを理解し、全体にわたって言われていることの意図をくみ取ることができる。 ● 応答もすばやく適切に行うことができる。	160	● 興味深い事例を取り入れながら、課題に沿った話の展開が完全にできている。 ● 文章の構成がしっかりしていて、文や段落が論理的につながっている。 ● 課題にふさわしい具体的な語句が、よく考えて選ばれている。
5	229〜190	● 文章全体の趣旨を伝える文がどれであるか判断したり、検索が困難な特定の情報を探し出したりすることがほぼ的確にできる。 ● 適切なスピードで、ほぼ正確に英文を読むことができる。	219〜200	● さまざまな内容を細かいところまでほぼ理解できる。 ● 長めの話や会話の流れを理解し、話し手の意図をくみ取ることができる。 ● 応答もすばやく適切に行うことができる。	159〜130	● 事例を取り入れながら、課題に沿った話の展開ができている。 ● 接続語句を正しく使って、文章はまとまりよく構成されている。 ● 使われている語句は正確で多様性に富んでいる。
4	189〜160	● 簡単な類推を行ったり、検索が比較的困難な情報も探し出して理解することができる。 ● 文章を読むスピードは比較的ゆっくりだが、ほぼ正確に理解できる。	199〜180	● 話や会話の一部に関して類推を行ったり、複数箇所にわたって述べられた情報を総合して判断することができる。 ● 相手の発言に対して、安定して応答ができる。	129〜100	● 課題に沿った話の展開が十分にできている。 ● 接続語句をうまく使いながら、論理的に整理された文章が書けている。 ● 難しい語句を使おうとする努力が認められる。 ● ごくまれにミスによって、考えが伝わりにくいことがある。
3	159〜140	● 簡単な類推を行ったり、何箇所かにまたがる情報も文字通りに理解することができる。 ● 検索が容易な情報を探し出して理解できる。 ● 文章を読むスピードは比較的ゆっくりだが、ほぼ正確に理解できる。	179〜160	● 基礎的な語いは身についているが慣用表現の理解はまだ不十分である。 ● はっきりと言われている文の意味を理解できる。 ● 応答の速さは十分ではないが、相手の話をほぼ正確に理解できる。	99〜80	● 話の展開はやや不十分だが、具体的な事例を含めて、ほぼ課題に沿った内容が書けている。 ● 文の多くは論理的に整理され、構文や語いにもいくらか多様性が見られる。 ● 時にミスによって、考えが伝わりにくいことがある。
2	139〜120	● ややレベルの高い単語や語句を理解することができる。 ● 概要をつかんだり、情報を探し出したりする力はまだ不十分である。 ● 文章を読むのに時間がかかる。	159〜140	● ややレベルの高い単語を聞き取ったり複数の基礎的な語句を聞き取ることができる。 ● 相手の話をある程度理解できることもあるが、安定していない。	79〜40	● 語いが少なく、文型・構文は単純なものであるが、英語で表現しようとする意思が認められる。 ● 最後まで書けていない文や語順が不確かな文があり、考えが伝わりにくいことがある。
1	119以下	● 基礎的な単語や語句を理解できる。 ● 基礎的な構文を使った、ごく簡単な内容を理解できる。 ● 文章を読むのに時間がかかり、理解が不正確になることがある。	139以下	● 基礎的な単語の部分だけを断片的に聞き取ることができる。 ● 基礎的な構文を使った、ごく簡単な内容について、理解することができる。	39以下	● 文章が短く、ごく簡単な単語と文型で表現ができる。 ● 文の一つ一つが最後まで書けていないことがある。 ● 日本語を使って表現している部分がある。

2 | 英語圏での英語使用経験

英語圏へ行ったことのある生徒は、日本・韓国ともに3割弱。
ただし、韓国の生徒のほうが、日本の生徒に比べて、英語圏において英語を使用した経験率が高い。

Q 英語圏での経験について教えてください。

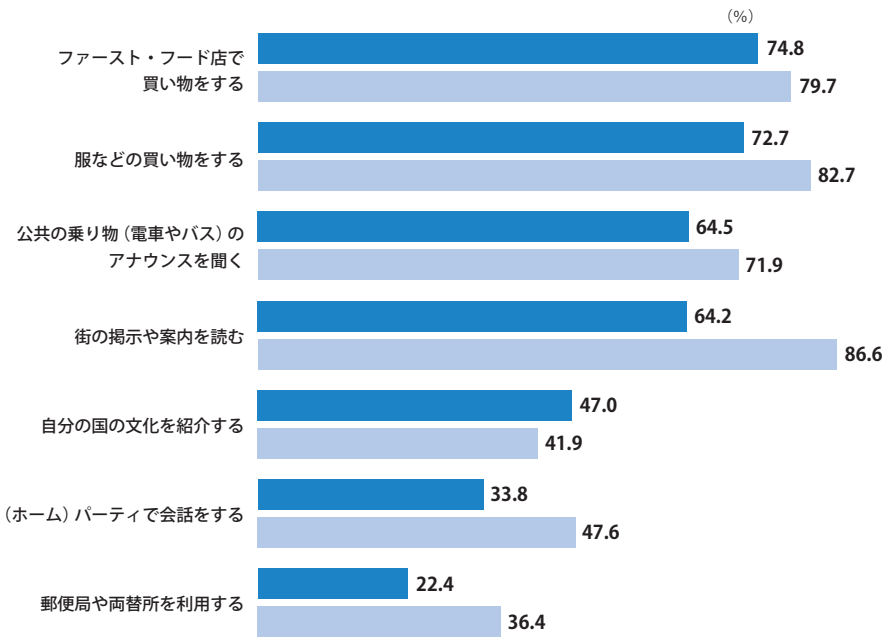
図3-2 日韓高校生の英語圏渡航経験



＊韓国では、「英語圏への旅行、滞在経験について」という形で尋ねている。
＊日本・韓国ともに、「ある」は「英語圏に行ったことがない」「無答不明」以外、「なし」は「英語圏に行ったことがない」の%。

Q 英語圏に行ったことのある人のみ答えてください。次の活動を、英語で経験したことがありますか。

図3-3 日韓高校生の英語圏での英語使用経験（したことがある）



＊韓国では、「韓国国外（英語圏）で英語を使う場面や活動に関する質問」という形で尋ねている。また、日本と韓国で異なるアンケート項目のため、共通する項目のみ集計した。
＊日本・韓国ともに、英語圏に行ったことが「ある」生徒のみ対象。
＊日本：「少しある」「何度もある」の%。
韓国：「したことがない」等、「無答不明」以外の%。

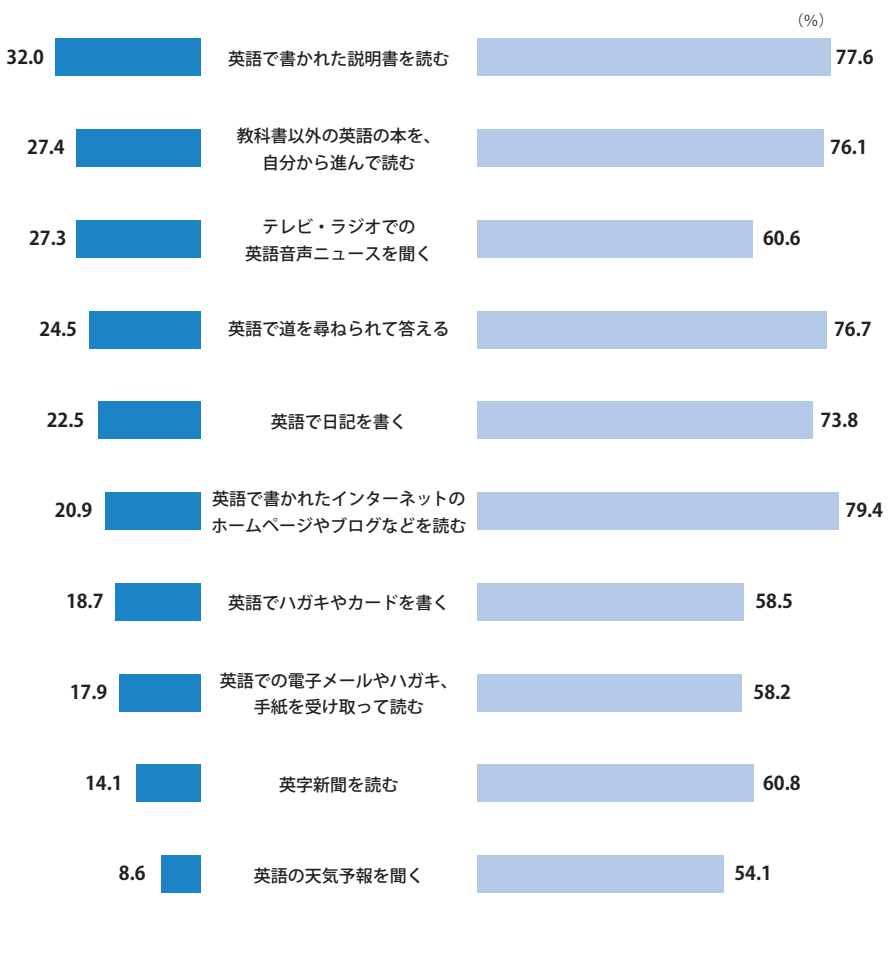
英語圏へ行ったことのある生徒は、日本で25.7%、韓国で28.5%である（図3-2）。滞在のスケジュールや期間による影響も考えられるが、全般に韓国の生徒のほうが、英語圏において英語を使用した経験率が高い。最も経験の差が大きい項目は、「街の掲示や案内を読む」で、日本の生徒の経験率64.2%に対して、韓国の生徒の経験率は86.6%である（図3-3）。

3 | 国内での英語使用経験

日常生活で英語を使用した経験がある生徒は、日本に比べて韓国のほうが2〜3倍多い。
最も経験の差が大きい活動は「英語で書かれたインターネットのホームページやブログなどを読む」で、韓国の生徒の経験率は日本の生徒の約4倍である。

Q 以下の「日常生活で英語を使う場面や活動」について、経験したことがありますか。

図3-4 日韓高校生の国内での英語使用経験（したことがある）



＊韓国では、「学校外の日常生活で英語を使う場面や活動に関する質問」という形で尋ねている。また、日本と韓国で異なるアンケート項目のため、共通する項目のみ集計した。
＊日本：「少しある」「何度もある」の%。
韓国：「したことがない」等、「無答不明」以外の%。

日常生活の英語使用経験についてみると、韓国ではすべての項目について、半数以上の生徒が経験している。一方、日本では、一番経験率の高い活動の「英語で書かれた説明書を読む」でも、経験している生徒は約1/3にすぎない。

「英語で書かれたインターネットのホームページやブログなどを読む」活動は、日本と韓国の生徒で経験率の差が一番大きく、日本では20.9%にすぎないが、韓国では79.4%の生徒が経験している（図3-4）。

Benesse教育研究開発センター

東アジア高校英語教育GTEC調査2006

A Survey on English Education at High Schools in East Asian Countries (Japan & Korea) 2006

調査企画・分析メンバー

日本調査 企画・分析

吉田　研作☒　上智大学教授
根岸　雅史☒　東京外国語大学教授
金森　強☒　松山大学教授
緑川　日出子☒昭和女子大学教授
長沼　君主☒　清泉女子大学専任講師
沓澤　糸☒　Benesse教育研究開発センター主任研究員
森下　みゆき☒Benesse教育研究開発センター研究員
吉池　陽子☒　Benesse教育研究開発センター研究員

韓国調査 企画・分析

權　五良（Oryang Kwon）　ソウル大学校教授

調査協力：（株）ベネッセコーポレーション GTEC for STUDENTS編集部

『東アジア高校英語教育GTEC調査2006報告書』2007年10月刊行予定

本調査の詳細な分析をまとめた『東アジア高校英語教育GTEC調査2006報告書』（150頁程度、頒価1000円）を、2007年10月（予定）に刊行します。この報告書をご希望の方は、直接、Benesse教育研究開発センターにお申し込みください。（なお、この報告書は、書店ではお求めになれません。）

WEBサイトのご案内

Benesse教育研究開発センターで実施している各種調査は、以下のWEBサイトでご覧いただけます。

Benesse 教育研究開発センター　http://benesse.jp/berd/

英語教材に関する情報は、以下のWEBサイトでご覧いただけます。

ベネッセコーポレーションHP / 語学　http://www.benesse.co.jp/gogaku/

お問い合わせやご注文はこちらまでどうぞ

〒163-1422 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー22階
Benesse教育研究開発センター「東アジア高校英語教育GTEC調査2006」係
TEL / 03-5371-1244（10:00～17:00 / 土日祝日を除く）
FAX / 03-5365-3172

「東アジア高校英語教育GTEC調査2006」速報版
発行日：2007年7月10日　発行人：新井健一　編集人：沓澤糸　発行所：(株)ベネッセコーポレーション　Benesse教育研究開発センター
RES001 PRINTED WITH SOYINK この冊子は、再生紙を使用し、大豆インキで印刷しております。